

委員会視察を実施

■文教委員会

10月25日、26日の2日間において、香川県琴平町及びまんのう町を視察した。琴平町では、放課後に子供たちが地域の方々に指導を受けながら交流を深める、放課後子供教室の取り組みの様子を伺った。勉強のほか農業体験も行われ、学年を超えての深い交流がある。まんのう町での研修は、通学合宿について。これは、



▲まんのう町仲南公民館での研修

子供たちが公民館等で一定期間寝食をともにしながら学校に通うもので、子供の社会体験不足を補完し、家庭教育を見つめ直すきっかけとなるほか、地域全体で子育てをする機運づくりも期待される取り組みである。

■産業建設委員会

11月24日、25日の2日間に、鹿児島県さつま町及び日置市の工業団地を、現在熊野町で進められている造成事業の先行地として視察を行った。

熊野と地理的に似通ったさつま町では、首都圏への職員の派遣など積極的な企業誘致が進められており、また、日置市においては、土地のリース制度を利用するなどして、それぞれが企業誘致に成功している。

また、災害による修繕、のり面の維持管理など、造成後における課題や問題点も、実際に現地を見ながら伺うことができた。



▲日置市の清藤工業団地

熊野町を視察訪問 三重県鈴鹿市議会

10月19日、筆の里工房にて鈴鹿市議会による視察研修が行われた。「地域産業を生かしたまちづくり」の主題のもと、筆の里工房に対する質問や、熊野筆と同じ伝統的工芸品である鈴鹿墨もあわせた今後の活路等についての意見交換も行われた。



▲鈴鹿市議会視察研修のようす

平成22年度 市町議会議員知事表彰

(議員在職47年)



南田議員

12月27日、平成22年度市町議会議員知事表彰が広島県庁で開催された。多年にわたる功績により、南田議員が広島県知事からの表彰を受けた。

発見! 熊野町の「工」ところ。 シリーズ第25回

全国各地にある名所や名物。もちろん熊野町にもたくさんあります。そんな町内に埋もれた、さまざまなモノ・場所などの「工」ところを紹介するコーナーです。

「道しるべ」～ vol. 9 シリーズ石造物 ～



▲三叉路にある「石の道しるべ」

そもそも熊野は高原盆地の地形なので、当時、隣村の大きな街道に出るには、峠越えをしなければならなかった。江戸末期から明治にかけて、職人や商人の出入りが活発になると、道しるべの重要性が一気に高まってくる。どうやらこの石の道しるべ、この時代に作られたもののように見える。町内気をつけてみると、意外と見つけることができる。



▲郷土館に移設された道しるべ

しかし近代の道路が作られる際に、残念ながら撤去された「石の道しるべ」の一部は、郷土館に移設されている。

はて? それでは「石の道しるべ」が据えてあった当時の古道は、いったいどこに存在したのであるのか? 「芸藩通志」の絵図に、町内を通る



萩原地区の古道。前方に亀割峠が見える

何本かの主要な古道が点線で紹介されている。平谷↓中溝↓萩原↓亀割峠を経て↓黒瀬町へ続く道。平谷↓城之堀↓初神↓阿戸町へ続く道。また阿戸↓萩原↓呉地↓鳥越峠を越えて↓苗代町へ続く道。奥海田町へは、出来庭↓赤穂峠と、初神↓古峠を越

■総務厚生委員会

11月25日に、宮城県石巻市雄勝硯生産販売協同組合を視察した。

熊野筆と同様、伝統的工芸品に指定されている雄勝硯は、近年、安価な中国製品による需要減少や後継者不足などにより、生産が落ち込んでいます。しかし、平成19年には、新商品開発に向けた委員会を立ち上げるなど、新しい動きも見られる。



▲雄勝硯伝統産業会館

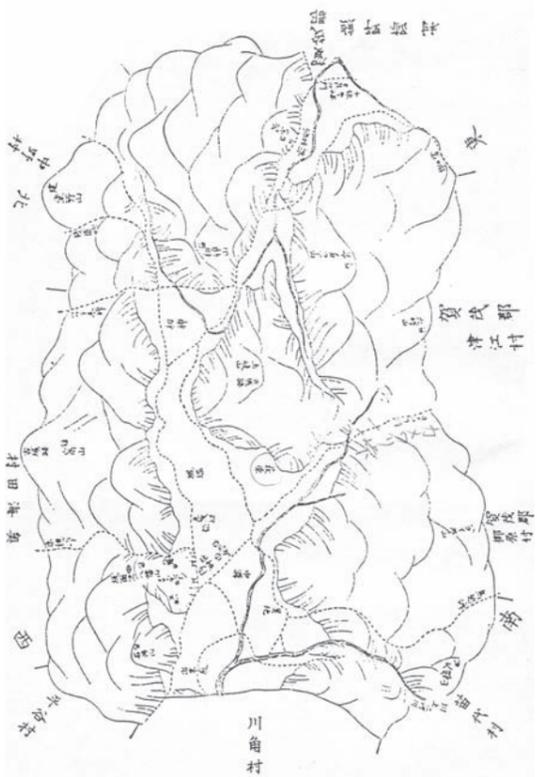
伝統的工芸品として、歴史・文化的背景をどのようにつなぐかが重要と考えられる。

えて向かう2本の道が記載されている。この頃は、海田市に郡役所が存在したため、商売だけでなく政治的往来もまた頻繁であったという。一方、米などの年貢を城下まで運ぶには、船を使うため、平谷↓矢野峠↓矢野の港へ向かうルートを使ったようである。

古今東西、生活環境の変化に道の影響が大きいのはいつの時代もおなじですね。道は人の通るところですが、物資はもちろん、情報や文化も運びます。「瀬戸内海の道構想」ならぬ、「山陽街道構想」はいかがでしょうか。

今回で「工」ところ発見」は最終回となります。みなさん、長い間読んでくださってどうもありがとうございます。

取材 伊藤真由美



▲熊野村絵図「芸藩通志」より